

松本市広報R8-6

- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社プラルト

公民館報

発行

2026

7/30

まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 80

梅雨明けを待つ

咲き始めた紫陽花と
雨の季節を見つめて

(撮影 2026.6.26 内田法船寺)

シリーズ 公民館報を考える 第1回

そもそも公民館とは、館報とは

松本市の公民館は来年創立80周年を迎え、再来年には公民館報全市版400号になります。そこで原点に戻って公民館と館報の意義を再認識していきます。

公民館の誕生

戦後の焼け野原の中から昭和21(1946)年に文部次官通牒(寺中構想)に基づいて生まれたのが公民館です。寺中構想は民主主義を育て、郷土の生活を豊かにすることを目指しています。

松本市中央公民館は翌年の4月1日に活動を始めました。戦後すぐに設置された信州各地の公民館は、自由な学び合いを通じて地域の課題を見つめながら、自治文化を育んできました。

公民館のさまざまな活動は、暮らしと自治の原点になる地域に根ざしていることが必須条件です。

公民館報の役割

公民館活動の中で必要に迫られて発行された館報は、公民館の機関紙として機能しています。

館報は公民館で学び合ったことを提起し、住民に伝え、それを共有化していく活動になくてはならない存在です。また、住民から選出された

編集委員が取材をして記事を書き、編集し発行します。この作業を通して、地域の人や活動を知り、それを広め繋げていくことを分かち合います。

梓川村館報

創刊の言葉から

昭和23年に公民館発足と同時に発行された館報は、ガリ版刷りで「民主国家と平和日本の建設、自由に楽しく明るく協同する村づくりを目指す」と明記されています。



100号



200号



300号

● タイトルの移り変わり

「館報が中だちして家から村から明るく楽しいところになって行くことを祈って止みません。情報伝達の役を果たすことができません。愛読と投稿をお願いします」と明記された記事は、館報の意義そのものです。

わがまち自慢 寿台地区

子どもの居場所再スタート

寿台では、明善学区の小・中学生を対象にした「こどぶきだいまなびの場 テラコヤ!」を令和7年12月から開始しました。

会場の「エコプラザ」は2年前までは寿台児童館でした。現在は町会が所有する施設となり、地域の活性化やまちづくりに役立てています。

10年以上も続く「子ども食堂」は、このエコプラザを新たな食堂の場所にしました。市の補助金や寄付、市場の協力で、毎月30から40人に食事が振る舞われています。温かな交流が長く続く地域です。

「子ども食堂」は、このエコプラザを新たな食堂の場所にしました。市の補助金や寄付、市場の協力で、毎月30から40人に食事が振る舞われています。温かな交流が長く続く地域です。

まなびの場 テラコヤ!

地区の子どもの数は小・中学生合わせて150人ほどですが、児童館が担っていた子どもたちの居場所をどうするかが検討され、寿台地区町会連合会が学都松本寺子屋事業



先生と子どもたち、多様な過ごし方があります

「テラコヤ!」を開くことになりました。教員免許を持つた先生2人とサポーター2人、ボランティアの高校生と大学生が携わり、毎月3回実施されています。子どもたちは多い時は10人を超え、遊んだり、勉強をしたり、思い思いに楽しく過ごしています。今後は長期休暇期の開催日追加など、より多くの子どもたちの利用が期待されています。

視点

②7 無料の学びと遊びの松本
子どものために



楽って学習をレポート

リーフレットは
こちらから

「無料の学びと遊びの松本」は、経済的な理由などで学習が困難な子どもたちを支援するため、2013年に活動を開始しました。現在は「学都松本寺子屋事業」の助成のもと、市内の公民館で小学生から高校生を対象とした無料勉強会を週に2回開催しています。定年退職後の元塾講師や現役教員、教職志望の大学生など、幅広い世代のボランティアスタッフが、子どもたちを温かくサポートしています。

年々の開口おひ

勉強会には、さまざまな事情を抱えた子どもたちが集まります。経済的困窮や複雑な家庭事情、学習への苦手意識から学校や塾で馴染めないことなど、それぞれに葛藤を抱えています。また、スタッフの中には、過去に同じような悩みを経験した人もいます。年齢も国籍も異なる、多様な背景を持つ大人と子どもが出会い、生徒たちの「学びたい」という切実な思いに向き合っています。



ゲームやお菓子で気分転換



集中モードで学習に取り組む子どもたち

まねは一度、来っ

代表の佐々木俊和さんは勉強会について、どんな子どもたちでも気軽に参加できる場所だと話します。

「よく問い合わせをいただくが、まずは一度試しに来てみてほしい。いつでも歓迎します」と活動の輪が広がることを期待しています。

旧町名碑めぐり ⑥



附属中学の南西に、比較的狭いながらも路線バスが行きかう萩町交差点があります。そこから200M南のバス停が町名碑の目印です。

萩町は、江戸時代までは武士が居住する武家町でした。松本城下を通る善光寺道の北の出入口として、人や荷物の出入りを取り締まる木戸や番所が構えられていました。

武家屋敷を人目から遮るように、道の両側に萩を植えて垣根としたことから、その名が付いたといわれています。



萩町交差点
★バス停

おこひる

歯の定期診察で訪れた歯科医院。診察台に腰掛けると、目線の先に先生が撮影したと思われる北アルプスのそ野の写真が飛び込んできた。しばらく見とれた後、ふと気がついた。最近、地区の公民館花壇から眺める残雪のアルプスにも、同じように見とれていたことを。実は最近、地区から花壇の手入れをする役割をいただいた。以前は花の名前など気にも留めず、ただ景色として通り過ぎていた。そんな自分が今では水やりや草取りをしながら花の名前も覚えていく。▼自分で手入れした花壇に腰掛け、アルプスを眺める。そんな時間が今の心の癒やしになっている。▼ついに自分もこんなことに喜びを感じる年代になったんだなあと思いつつ、今地域の中で自分ができることを、できる範囲で丁寧に行なって、丁寧にやっていると、散歩する人からいただく「きれいだねえ」の一言も何よりの励みだ。



歯の定期診察で訪れた歯科医院。診察台に腰掛けると、目線の先に先生が撮影したと思われる北アルプスのそ野の写真が飛び込んできた。しばらく見とれた後、ふと気がついた。最近、地区の公民館花壇から眺める残雪のアルプスにも、同じように見とれていたことを。実は最近、地区から花壇の手入れをする役割をいただいた。以前は花の名前など気にも留めず、ただ景色として通り過ぎていた。そんな自分が今では水やりや草取りをしながら花の名前も覚えていく。▼自分で手入れした花壇に腰掛け、アルプスを眺める。そんな時間が今の心の癒やしになっている。▼ついに自分もこんなことに喜びを感じる年代になったんだなあと思いつつ、今地域の中で自分ができることを、できる範囲で丁寧に行なって、丁寧にやっていると、散歩する人からいただく「きれいだねえ」の一言も何よりの励みだ。

●公民館長

令和8年度 新任公民館職員

中央 野口 典宏
第二 太田 賀夫
城北 黒田 明浩
新 村 大久保 隆志
笹 賀 杉山 佐俊
松 原 市 孝好
岡 田 河内 正弘
入 山 白 山 佳明

●公民館主事

中央 降旗 眞節
中央 小口 眞
第一 赤沼 香菜子
城 東 内藤 梢
島 立 廣前 優吾
神 林 小口 将平
寿 林 小林 大地
寿 田 村 あかね
岡 田 朝倉 光貴
入 山 清水 昌行

●館報全市版編集委員

里山 稲場 毅人
今 井 吉江 大輔
波 田 清水 飛翔
第一 伊藤 善立
第三 上條 恒嗣
東 部 降旗 賢一
城 北 尾田 智子
安 原 大和 靖
白 板 稲場 健一
庄 内 大野 彰孝
鎌 田 南雲 多榮子

松 南 下條 今朝男
島 内 川上 弘
新 村 山口 茂
神 林 藤澤 良彦
笹 賀 船坂 みゆき
芳 川 村田 正幸
寿 台 江藤 弘子
松 原 曾根 原 豊
入 山 大澤 深志
里 山 上 地 昭一
今 井 野尻 和彦
内 田 横山 美和

梓川 森 鉄雄
波 田 宮澤 典子
大学生 坪田 隼弥
大学生 米田 美優
大学生 蓮本 あやめ

(令和8年7月30日現在)



再発見!! まつもと地名がたり 18

国古き信濃の真中…(※) 笹賀地区

奈良井川の流れとともに、古来より栄えた郷

この地区は明治7年に二子・神戸・神戸新田・小俣の5カ村が合併し、笹下村として発足しました。この地が松本を中心に置かれた莊園「棒庄」の下(南部)であったことにちなんでいます。明治12年には行政区分を住民の生活圏にあわせるため、5カ村に分離。明治22年に改めて合併して笹賀村が誕生しました。その後昭和29年に松本市と合併し、松本市大字笹賀となりました。

〈二子〉

この地名の由来には諸説あります。信濃守護の小笠原氏と莊園領主の間で、この地域の領地や年貢を二つに分けたという説。または、奈良井川に二つの小高い自然堤防が並んでいた。あるいは、河が二股に分岐していた場所を指したという説などです。

〈神戸〉

鎌倉時代に小俣から分かれた。諏訪下社領であったことから、神地として神戸と

いわれています。他に、河を渡る場所「河渡」が「こうど」になったともいわれます。

〈神戸新田〉

寛永年間に奈良井川の洪水により田畑と屋敷が流失したため、神戸村西南の原野に用水開発をして、神戸新田となりました。

〈小俣〉

俣(また)とは、河や道が二つに分かれる場所、あるいは、合流する地点を意味します。奈良井川の支流や農業水路が複雑に入り組む地形により「小俣」となりました。

〈今〉

二子や小俣での農業生産力向上や人口の増加などに伴い、「新たに」定住地が拓かれました。既存の古い村に対して「今の新しい村」として名付けられました。

(※窪田空穂作詞菅野中学校校歌より)



笹賀地区 町会区分図

(国土地理院 地理院地図を加工して作成)

松本平の野鳥たち



アカハラ (2023年6月松本市内田 写真提供:信州野鳥の会)

全長24cm ツグミの仲間—一般的に夏鳥。(同じ仲間のシロハラは冬鳥) 平地から山地にかけての明るい森林や草原が好み。澄んだ大きな声で「キョロン キョロン チー」と鳴く。松本平では美ヶ原高原や乗鞍高原で鳴き声や姿を楽しむことができる。

まつもと散歩

夏の日差しは
あなたの味方
夢は光につつまれて



(撮影: 2026.6.19 松本駅お城口広場)